

カナダ金融政策（2023年12月）

インフレ沈静化に向けた進展を評価

2023年12月7日

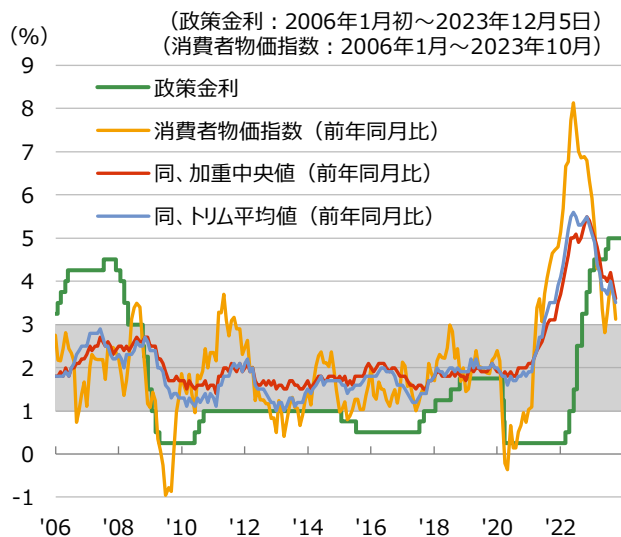
今後数カ月で利下げ開始を正当化するデータが揃うか

カナダ銀行（中央銀行）は12月6日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を5.00%に据え置くことを決定しました。据え置きは3会合連続です。

声明文からは、カナダ銀行がインフレ抑制に対して自信を深めている様子がうかがえます。例えば、実質GDPが7-9月期に前期比でマイナス成長に陥ったことなどに触れ、「利上げは明らかに消費を抑制している」と評価したほか、労働市場の軟化を示す各種指標に言及し、前回までの「労働市場は依然としてひっ迫している」との記述がなくなりました。更に、消費者物価指数の総合ならびにカナダ銀行が重視するコア（加重中央値とトリム平均値）の伸びが10月に明確に鈍化したことを受けて、「物価安定に向けた進捗は緩慢」といった表現も消えています。

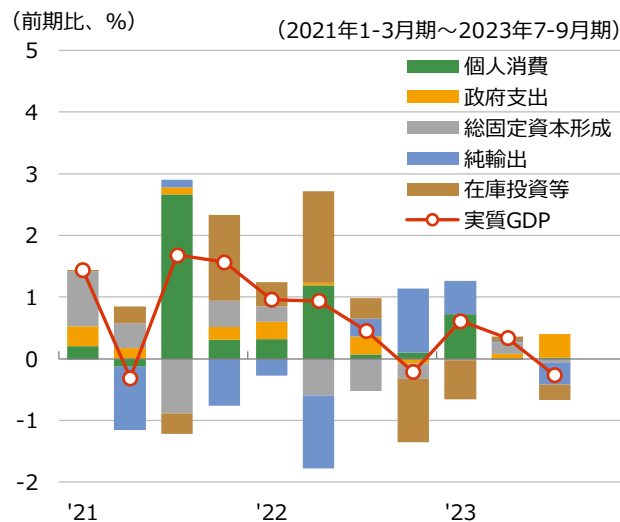
今後の方針に関しては、「必要ならば更に利上げする用意がある」との文言を維持していますが、上述の通りインフレ沈静化に向けた進展が見られることから、追加利上げの可能性は一段と低下したと考えられます。また、「コアのインフレ率の更なる、かつ安定的な低下を見たい」と記しており、こうしたデータを確認できれば、議論の焦点は追加利上げの有無から利下げ開始時期に移るでしょう。金利先物から見た利下げ開始時期の確率は、来年3月までが6割超、同年4月までが100%となっており、インフレ指標を中心に今後数カ月で利下げ開始を正当化するデータが揃うか注目されます。

カナダ：政策金利と消費者物価指数



※陰影部はカナダ銀行のインフレ目標レンジ
(出所) ブルームバーグ、カナダ統計局

カナダ：実質GDP成長率と項目別寄与度



(出所) カナダ統計局より大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。